

スマート農業技術を利用した露地野菜サプライチェーンの安定化の実証

スマート農業技術を導入することで、今後活躍の見込まれる拠点事業者の経営最適化と、露地野菜サプライチェーンの安定化を目指す。

- 実証課題名：**安定したサプライチェーンを実現するための畑地かんがいを利用したスマート農業技術による環境制御及びkintoneを活用した生産・加工・物流の一元管理体系の実証
- 実施地域：**都城市
- 取組主体：**太陽ファームスマート農業実証コンソーシアム
 (有)太陽ファーム、(株)マキタ運輸、(株)オクニ、サイボウズ(株)、(株)アグリスマート、ヤンマーアグリジャパン(株)、宮崎県、都城市、東京農工大、山口大学、(株)近代経営研究所
- 品目・規模：**キャベツ、ニンニク、ショウガ、カンショ 実証面積27ha
- 実証する技術体系**
 - ①経営管理システムによる生産・加工・物流の一元管理**
 生産・加工・物流を経営管理システムで一元管理し経営の最適化
 - ②「土壌水分」の適正管理**
 土壌水分を自動畑地かんがいシステムとGPSレベラーで適正管理
 - ③スマート農機による**
 スマート農機による作業時間削減・熟練度に因らない作業体系**【実証項目】**
 - ① 経営管理システムによる一元管理の実証
 - ② リモートセンシングの効果実証
 - ③ 自動畑地かんがいシステムの効果実証
 - ④ スマート農機の効果実証（自動操舵、ロボトラ、GPSレベラー等）
- 成果目標**
 データ一元管理規模50名、10aあたり収量20%増・作業時間20%減

<主な導入機械等>

- ①経営管理システム
- ②自動畑地かんがいシステム
- ③GPSレベラー
- ④自動操舵システム
- ⑤ロボットトラクタ（全自動で耕うん）等

◆ 特徴

生産だけに留まらない経営管理システムを導入し、拠点事業者の経営最適化を目指す。

また、露地野菜の生産において土壌水分をコントロールし、ブレない原料調達を行い、安定したサプライチェーンの実現を目指す。



拠点事業者の業務の流れ



自動畑地かんがいシステム



GPSレベラー